

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

平成25年度病害虫発生予報第5号

平成25年7月31日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや少
	紋枯病	—	やや少
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	やや少
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	並	やや多
	イチモンジセセリ	—	やや少
	コブノメイガ	—	やや少
カメムシ類	—	多	
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	並	並
モモ	モモハモグリガ	—	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	やや少
	ハダニ類	—	やや少
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	並	並
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	—	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	やや少

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	並 やや多 並
トマト	疫病 葉かび病	— —	少 並
ダイコン	軟腐病	—	やや少
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや少
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — 並	やや多 やや多 並
キク	ハダニ類	—	やや多

1 普通作物

(水 稻)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は40.0%で平年(62.2%)よりやや低かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では病勢の進展が速いので、早期発見に努める。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は16.7%で平年(27.9%)より低く、中部地帯は37.5%で平年(49.1%)よりやや低かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちが多発するなどして穂いもちの多発が予想される場合は、液

剤または粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並である。

イ. 7月24～26日の巡回調査によると、発生圃場率は7.9%で平年(28.5%)より低かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(5) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ:早生種、中生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は3.4%で平年(15.9%)より低かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、発病をやや助長する条件である。

(6) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月24～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、11頭で平年(208.1頭)より少なかった。

イ. 7月24～26日の巡回調査によると、発生圃場率は27.0%で平年(62.5%)より少なく、すくい取り(20回振り)調査による成幼虫数は11.1頭で平年(44.3頭)より少なかった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並
発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、1頭で平年(0.3頭)よりやや多かった。
- イ. 7月24～26日の巡回調査において発生を認めなかった。
- ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(9) イチモンジセセリ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月24～26日の巡回調査によると、発生圃場率は1.1%で平年(9.3%)より低く、発生程度は平年並であった。
- イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月24～26日の巡回調査によると、発生圃場率は3.4%で平年(52.3%)より低かった。
- イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は551頭で平年(386.1頭)より多かった。
- イ. 7月24～25日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)によると、アカスジカスミカメの成虫数は216.1頭で平年(148.7頭)より多かった。
- ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(防除上の参考事項)

- ア. 平成25年度病害虫発生予察注意報第1号(平成25年7月19日発表)参照

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は191頭で、平年（259.2頭）よりやや少なかった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は3頭で、平年（109.3頭）より少なかった。

イ. 7月17日の巡回調査によると発生圃場率は0%で平年（5.3%）より低かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 平成25年度植物防疫情報第4号（平成25年5月27日発表）参照

(2) ナシヒメシクイ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は14頭で、平年（75.4頭）より少なかった。

イ. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は27.0%で平年（47.4%）よりやや低かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は13.5%で平年(30.3%)より低かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23日の県予察圃場での発病葉率は45.0%で平年（40.8%）並の発生であった。

イ. 7月17日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（2.0%）並であった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は3.7%で平年（36.8%）より低かった。

イ. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は38.5%で平年（49.7%）よりやや低かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(3.8%)より低かった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月19日の県予察圃場での発病葉率は94.2%で、平年(49.4%)より高かった。

イ. 7月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は80.0%で平年(67.2%)よりやや高かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月19日の県予察圃場での発病葉率は7.8%で、平年(6.5%)よりやや多かった。

イ. 7月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年(31.1%)より高かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月19日の県予察圃場での発病葉率は0.1%で平年(8.1%)より低かった。

イ. 7月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(56.9%)より高かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされている。高温は本病の発生を助長する条件となるが、降水量が少ない場合には抑制条件となる。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月19日の県予察圃場では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(1.0%)よりやや低かった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月19日の県予察圃場での発病葉率は0%で、平年(3.4%)よりやや低かった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(17.1%)並であった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされている。高温は本病の発生を助長する条件となるが、降水量が少ない場合には抑制条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(34.0%)より低かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされている。高温は本病の発生を助長する条件となるが、降水量が少ない場合には抑制条件となる。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が25.0%で平年(50.4%)より低かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件である。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は52頭で平年（44.7頭）並であった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が28.6%で平年（18.1%）よりやや高く、キュウリでは20.0%で平年（23.9%）並であった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件である。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での発生量は平年並であった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は191頭で、平年（259.2頭）より少なかった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件である。

4 花き類

(キク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年（16.0%）よりやや高かった。

イ. 7月26日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないか平年並とされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。